

既成価値を問うアメリカの詩人たち

——ホエーラン、スナイダー、ギンズバーグ——

田 中 泰 賢

今回取り上げたフィリップ・ホエーラン (Philip Glenn Whalen, 1923–2002)、アレン・ギンズバーグ (Allen Ginsberg, 1926–1997) 及びゲイリー・スナイダー (Gary Snyder, 1930–) たちは1955年10月サンフランシスコで詩の朗読会を開いた。この朗読会によってサンフランシスコ・ルネッサンスが一般市民に知られるようになった。ホエーランの詩を中心に3人の詩人の詩を取り上げ、彼らの共通したものは何であるかを観ようとした。

主な言葉：戦争 (ホエーラン)、両性具有 (スナイダー)、便所 (ギンズバーグ)

フィリップ・ホエーランとゲイリー・スナイダーは大学時代からの友人であった。「ホエーランは第二次世界大戦の兵役経験者であった。復員兵援護法によりリード大学 (Reed College) で学んでいる。スナイダーより7歳年上であったが、1951年に一緒に同大学を卒業している」¹⁾。スナイダーはホエーランの詩集 *The Collected Poems of Philip Whalen* の序文を書いている。彼らとアレン・ギンズバーグは青年の時から詩人仲間であり、共に仏教をよく学びあったアメリカ人仏教徒である。ギンズバーグはホエーランの詩集 *Canoeing Up Cabarga Creek Buddhist Poems* の序文 (Foreword) を書いている。

ホエーランは若い時から中国や日本に関する本を読んでいたのがアメリカ詩の代表的詩人、エズラ・パウンドを尊敬していた。何故ならパウンドもまた中国や日本の文化を彼の作品に取り入れていたから。またビート世代のホエーラン達のおばあさんの存在で「戦争は避けられない事はない。戦争は常に自暴自棄である。戦争は自暴自棄である。(War is never fatal but always lost. Always lost)」²⁾と述べたガートルード・スタインにも一目置いていた。

ホエーランは曹洞禅の僧侶でもあった。「ホエーランは1972年、サンフランシスコ禅センターを居に定め、曹洞宗の鈴木俊隆老師（1905-1971）の衣鉢を継いだリチャード・ベイカー（Zentatsu Richard Baker, 1936-）の弟子になった。1973年、50歳の時、仏教僧になっている。彼の僧名は Zenshin Ryufu である。意味は禅の心、龍の風である。1990年代サンフランシスコのハートフォード・ストリート・禅センターの住職になっている。病気で引退するまで任務を全うした³⁾。彼は「牛祭り」という詩を書いている。

USHI MATSURI

The Immortals are on the loose again!
One rides a black bull round and round Koryuji
One reads from a great law scroll
All the others dance and chant

Swollen moon-face Good Luck
Balloon-head blue-eyes Longevity
Suddenly zip into the temple out of sight

Bats
Tigers
Cranes

16:x:66⁴⁾

神々が再び自由になっている！
ある神は広隆寺の境内と周辺を黒い雄牛に乗って巡る
ある神は大きな仏法の巻物を読んでいく
他の神々は踊り、詠唱する

膨れた丸顔の福の神
風船のような頭の青い目の長寿の神
突然お寺の中に入り姿が消えた

蝙蝠（コウモリ）たち

虎（トラ）たち

鶴（ツル）たち

1966年10月16日（拙訳）

フィリップ・ホエーランは“Ushi Matsuri”という題名の詩を書いている。この題名は日本語をそのまま英語で使われているラテン・アルファベット文字で表記している。この“Ushi Matsuri”を英語に置き換えるなら、この詩の中で“a black bull”が登場するので例えば“The Bull Festival”という題名も可能であろう。しかしホエーランは英語に置き換えなかった。彼は京都市右京区太秦の広隆寺で開催された「牛祭り」に大きな感動を覚えてそのまま“Ushi Matsuri”と題して詩に表そうとしたのであろう。このお祭りに敬意を表したことが伺える。この京都の三大奇祭の一つとして知られている「牛祭り」がアメリカの詩人によって書かれた貴重な記録でもある。もちろん詩であるのでそのお祭りを忠実に再現して表現されたものかどうかかわからない。しかし現在、「牛祭り」が休止だという。それならば1966年当時、彼が見学した様子が断片的であれ、詩という形で知ることができる。彼は日本の一つの文化を私たち日本人にも伝えてくれている。

“Ushi Matsuri”という言葉は現在英語として認知されていない。『ジーニアス英和大辞典』（大修館書店、2001年）を引くと、“Zen”（禅）、“satori”（悟り）、“Bon”（お盆）、“Shinto”（神道）、“kami”（神）という言葉が載っている。日本文化一般としては“tanka”（短歌）、“haiku”（俳句）、“wabi”（わび）、“kimono”（着物）、“obi”（帯）、“origami”（折り紙）、“wakame”（海藻の一種、ワカメ）、“sake”（酒）、“bonsai”（盆栽）⁵⁾などがみられる。しかしホエーランが使用した“Ushi Matsuri”及び“Ushi”も“Matsuri”も英語の中には入っていない。だから英語圏をはじめとして英語で読む読者は“Ushi Matsuri”を即座には理解しにくいであろう。にもかかわらず彼は認知された英語の単語による表記を選ばなかった。やはりこの祭りに対する思い入れがあるからだろう。

1連目の2行“a black bull”という表現によって一頭の黒い雄牛がわかる。牛によっては必ずしも黒色とは限らない。ここでは「黒い」という言葉によって牛の色が限定されている。この“black”は「真っ暗な、真っ暗やみの」という意味もある。この牛祭りが夜間に行われることを知らなくても、この「黒い」表現と2連目の3行にある“out of sight”（見えないところに）及び3連目の“Bats”（コウモリ）のほとんどは夜行性なので夜を連想することも可能であろう。夜であれば茶色の牛も黒色に見えてしまう。この“out of sight”はアメリカの俗語では「と

てもすばらしい」いう意味もある。2連目の1行“Good Luck”（幸運）、2行“Longevity”（長寿）、そして3行“out of sight”（とてもすばらしい）となって縁起のいい言葉が続くことになる。

1連目の3行“read”（朗読する）と同じ連の4行“chant”（詠唱する）という表現と2連目の3行“temple”（お寺）から厳かな雰囲気が出されている。これによって1連目の1行“rides”（乗る）と同連の4行“dance”（踊る）という動作を示す言葉が使用されてもスペインの闘牛とは異なるものであることが分る。コウモリは英語辞典では悪魔、死、盲目、吸血を連想させるとなっている。『日本国語大辞典』（Ex-word）によると蝙蝠は団十郎の家紋であるという。以前の日本では蝙蝠は必ずしも悪い生き物ではなかった。3連目の“Tigers”（虎）は勇氣、優美などの象徴である。『日本国語大辞典』でも比喩的に、勇猛果敢な人、また恐れ重んじられる人を表す。同連の“Cranes”（鶴）は長寿、純潔、高慢などの象徴となっているが、日本でもその端正な姿態から神秘的な鳥とされ、亀とともに長寿の象徴となり、吉祥の鳥ともされる。

『仏教大事典』によると、「広隆寺は真言宗単立。京都市右京区太秦蜂岡（うずまさはちおか）町。山号は蜂岡山（はちおかざん）。蜂岡（はちおか）寺・太秦（うずまき）寺・秦（はた）寺・秦公寺・葛野（かどの）寺などとよばれ、俗に太秦の太子堂ともいう。本尊は聖徳太子像（もとは弥勒菩薩みろくぼさつ）。京都最古の寺院で、聖徳太子ゆかりの七大寺の一つ。このお寺は、渡来系氏族秦氏の長、秦 河勝（はたのかわかつ）が603年（推古天皇11）に聖徳太子から仏像を授けられたことに始まると伝える。この仏像は、寺宝の木像弥勒菩薩像二体（ともに国宝）のうちの一休である宝冠弥勒と考えられている。美しく微笑んでいるかのように見え、ほぼ同形の金銅仏が韓国国立中央博物館にある。もう一休は「泣き弥勒」とよばれる宝髻（ほうけい）弥勒である」⁶⁾。

牛祭りは広隆寺で毎年10月12日（旧暦9月12日）に行われる魔吒羅（まだら）神祭礼。長和年間（1012～17）源信が創始と伝えるが未詳。当時常行堂の不断念仏会に伴う同堂守護神の魔吒羅神風流（ふりゅう）に起源するらしく、江戸時代初期には魔吒羅神祭礼、俗に牛祭りと呼ばれる。異形の面をつけた魔吒羅神が牛に乗り諸役を連れて行列し、四方に赤鬼・青鬼が立つ薬師堂の前で自ら祭文を読み上げるのを主とする。明治維新で一時間中断、1887年（明治20）に富岡鉄斎らの尽力で復興された⁷⁾。

彼は長年の友人、ゲイリー・スナイダーにささげる短い詩を書いている。

HAIKU, FOR GARY SNYDER

IS

Here's a dragonfly

(TOTALLY)

Where it was,

that place no longer exists.

15:i:60⁸⁾

ハイク、ゲイリー・スナイダーへ

島

ほら、トンボ

(そのとおり)

住んでいた、

その場所はもう見られない。

1960年1月15日（拙訳）

題名でハイクとなっているが文字通りの俳句ではない。俳句のように短い詩と見たほうが良さそうである。ホエーランは仏教僧なので“no longer exists”の表現から「空」的な観点でこの詩を解釈することが可能であろう。しかしこの詩はゲイリー・スナイダーに捧げられている。スナイダーは環境運動家としてもよく知られている。そして題名に「ハイク」が挙げられている。この「ハイク」から俳句が連想される。俳句は自然とのつながりが深いのでこの詩も生き物への思いを綴っていると読み取れる。島のトンボにとってもかつて存在した自然の風景が変わってしまったのだろうか。この詩ではそういうことを叫んではない。しかしさりげなく一匹の昆虫、トンボをとりあげて生きものへのいたわりを表している。

上田哲行氏は次のように述べている。「日本人にとってアキアカネは単なる「虫」ではなく、ひとつの「風景」であると考えています。三木露風作詞の童謡「赤とんぼ」に、多くの人が自分の原風景を重ねていることに気づいたからです。アキアカネに導かれて、トンボと人、生きもの人とのかかわりを考えてきましたが、それは「生物多様性」にかかわる問題への根源的な問いかけであるとも思っています⁹⁾。この上田氏の言葉にハッとさせられる。

Yoshimura Mayumi (吉村真由美) 氏と Okochi Isamu (大河内勇) 氏は論文“A decrease in

endemic odonates in Ogasawara Islands, Japan”で小笠原諸島の固有種のトンボ（蜻蛉）の減少が1970年代から始まった道路工事等だけによるのではなく、蚊の繁殖を防ぐために導入された *Gambusia affinis*（カダヤシ）がトンボの幼虫を食べるのではないか。また導入された *Anolis carolinensis*（グリーンアノール）は一日2匹以上のトンボを食べることが出来る。つまり外来種がトンボの減少に影響を与えていることを発表している。この論文で“*In Chichi-jima, a priority before providing suitable aquatic habitat for odonates should be to minimize the effects of predation by Anolis carolinensis.*”（父島において、トンボのために適した水の生息地を与える前に優先されるのはグリーンアノールによる捕食の影響を最小にすることである）¹⁰⁾と述べられているところが印象に残った。

角谷拓・須田真一・鷺谷いずみ諸氏の論文「トンボの絶滅リスクに及ぼす生態的特性の効果」で関心を引いたのは次の所であった。「絶滅リスクが高くなる傾向にあった止水性種及び広域分布種は、他のタイプの種群にくらべて、水田・ため池・かんがい用水路など、水田生態系の生息環境を利用する種の比率が高かった」¹¹⁾。粟生田忠雄・片野海・遠山和成・神宮字寛諸氏の論文「赤トンボの羽化殻を指標とした市民参加型の水田環境評価」によると「新潟県のトンボの生態と水田稲作の関係を明らかにした研究は極めて少ない」¹²⁾とのことである。そういう意味でこの論文は貴重である。以上の論文のみならず多くの科学者によってトンボの減少が様々な要因によることが研究されており、生きものが絶滅しないような方法も研究されている¹³⁾ことを少しではあるが知ることが出来た。

フィリップ・ホエーランの長年にわたる友人、ゲイリー・スナイダーは“*Tōji Shingon temple, Kyoto*”と題する詩を書いている。

Tōji

Shingon temple,

Kyoto

Men asleep in their underwear

Newspapers under their heads

Under the eaves of Tōji,

Kobo Daishi solid iron and ten feet tall

Strides through, a pigeon on his hat.

Peering through chickenwire grates

At dusty gold-leaf statues
A cynical curving round-belly
Cool Bodhisattva—maybe Avalokita—
Bisexual and tried it all, weight on
One leg, haloed in snake-hood gold
Shines through the shadow
An ancient hip smile
Tingling of India and Tibet.

Loose-breasted young mother
With her kids in the shade here
Of old Temple tree,
Nobody bothers you in Tōji;
The streetcar clanks by outside.¹⁴⁾

東寺

真言宗寺院、京都

肌着で寝入っている人々
新聞紙を枕にして
東寺の軒下、
中まで鉄の、3メートルの高さの弘法大師
またがって立つ、遍路笠の上の鳩。

金網の格子を通して目を凝らす
くすんだ金色の蓮華に
既成の価値を疑い、曲線を描くふっくらとしたお腹
落ちていた菩薩—おそらく観音菩薩—
両性具有でひたすらそれを試みた、一方の足に
重心を置き、蛇の頭部をまとった後光が金色に
輝く、影を貫いて
太古からの素敵な微笑

インドとチベットの響き。

ゆったりとした胸の若い母親

日陰で子どもたちと一緒に

この古いお寺の木の下、

あなたを困らせる人は誰もいない東寺、

路面電車が外でチンチンと音を立てる。(拙訳)

この詩の題名は先ほどのフィリップ・ホエーランの詩の題名と異なり、英語の副題“Shingon temple, Kyoto”が施されている。“Shingon”(「真言宗」)は『ブリタニカコンサイス百科事典』(EX-word)では次のように説明されている。“Esoteric Japanese sect based on an interpretation of 9th-century Chinese Buddhism. It holds that the Buddha’s secret wisdom can be developed through special ritual means employing body, speech, and mind, including the use of symbolic gestures, mystical syllables, and mental concentration. The whole is intended to arouse a realization of the spiritual presence of the Buddha inherent in all living things. Shingon’s main scripture, the *Mahavairocana Sutra* (“Great Sun Sutra”), is not canonical in other Buddhist schools. Shingon is properly considered a form of Vajrayana, though it was much modified and systematized by Kukai.”(9世紀中国仏教の解釈に基づいた日本の密教。仏陀の秘伝の智慧は象徴的な身ぶり、神秘的な言葉(真言)及び精神の集中を含んだ身体、言語、心を用いた特別の儀式によって引き出されると考えている。全てがあらゆる生きとし生けるものに具わる仏陀の精神的な存在の実現を呼び起こすために意図されている。真言宗の主要な経典『大日経』は他の仏教の宗派では正典ではない。真言宗はバジュラヤーナの正しい一形態と考えられている。それは空海によってかなり修正され、体系化されている。)

1 連目3行の“Kobo Daishi”は空海のことである。「空海(774-835)は真言宗の開祖。讃岐(香川県)の人。804年留学僧として入唐。翌年青竜寺東塔院の恵果(けいか)と出会い、胎蔵・金剛界・伝法阿闍梨(あじゃり)位の灌頂(かんじょう)を受け、インド伝来の密教を余すところなく授けられた。同年12月に恵果は没し、空海は弟子を代表して恵果の碑文を撰した。806年(大同一)帰国。空海は、ただの紹介者たるにとどまらず、各宗各派の教理に通暁した深く広い学識によって、日本真言宗の教理と実践を、インド・中国のものと一頭地を抜く独特のものに高めることに成功した。現在、真言宗は古義・新義諸派及び各教団を併せ約1万2,400か寺、僧侶約4万人、信者数約1540万人の教勢を持つ¹⁵⁾。

デイリー・スナイダーは1956年5月、26歳の時京都の相国寺で禅の修行を始めている。

2011年秋、スナイダーがポエトリー・リーディングで来日した時、語っているように、戦後日本は貧しかった。それは京都も例外ではなかった。1950年代に書かれたこの詩にもその様子が描かれている。1連目には東寺の軒下で下着姿の男たちが新聞紙を頭の下に敷いて眠っている様子が書かれている。最終連では路面電車の様子が書かれているが今は京都では見られない。貴重な記録になっている。

2連目の下から2行の“hip”を「素敵な」と訳したが、「ビート族 [ヒッピー] の」という意味もある。それは同連の上から3行の“cynical”（既成の価値を疑う）と繋がってくる。この“cynical”（既成の価値を疑う）観音菩薩は大切なところである。ここでは“cynical”は従来の否定的な意味ではない。スナイダーが観音菩薩と両性具有を結びつけているのは斬新な発想である。渡邊恵子氏はアメリカにおける男らしさ・女らしさそして両性具有の心理学的測定研究の歴史的動向をたどる論文を書いている。渡邊氏は次のように述べている。

「戦後の男女平等思想への転換は、考えてみると、男性の生活面の役割分担は全体的には大きく変わることなく、女性の側に男女の平等化するかわち男性と同質の権利、行動様式への拡大的変質をもたらしたともいえよう。その結果は、男は仕事、女は家事・育児に加えて仕事、さらに近年は高齢者介護という二重、三重の負担を背負う現状である。しかし、同時に、この転換は、女性の視点からあらゆる問題をとらえ直す、ここ約十年の試行錯誤的試みも生み出した。その過程で、女性の問題が男性の問題でもあることが、しだいに浮きぼりにされてきた。こうしたわが国の動向は、男女差別撤廃への国際的動向ときわめて密接に関連している。男らしさ・女らしさの心理学的研究も、こうしたわが国や海外の社会的動向を背景として発展している」¹⁶⁾。

そして終わりの所で渡邊氏はこう述べている。「そもそも男らしさ・女らしさ・両性具有は、個人の生活の性役割分担すなわち仕事・家事・育児・介護の分担に関わる社会的期待やその認知、それに応じた態度や行動、さらに性アイデンティティを含んだ心理学的概念である。したがって、男女平等の思想が、社会的レベルの主義主張や行動にとどまらず、個人レベルの生活様式や心理に及ばない限り、両性具有の測定は可能とならない」¹⁷⁾。こうしてみるとスナイダーが使っている「両性具有」及び“cynical”「既成の価値を疑う」は私たちに問題提起する重要な言葉であることがわかる。

ホエーランも“cynical”を用いた詩“Cynical Song”を書いている

CYNICAL SONG

You do what you do

Fucky-ducky
You do it anyhow
People don't like it
Fucky-ducky

People like it
Fucky-ducky
You do what you do
Fucky-ducky

San Francisco 29:iv:78¹⁸⁾

既成価値を問う歌

今行っていることに打ち込んでいる君
素晴らしい
どんなことがあってもやり遂げる君
人々が嫌いであっても
素晴らしい

人々が好きになる
素晴らしい
今行っていることをやり通す君
素晴らしい

サンフランシスコ 1978年4月29日（拙訳）

人々の既成概念にとらわれることなく自分が正しいと思ったことをやっていく。ホーラン自身、アメリカでは少数派である仏教を若い時から始めて生涯にわたってやり通した人であった。大多数のアメリカ人にとって彼の行為は奇異に映ったのではなかろうか。けれどもやるべき天職に喜びをもって彼は打ち込んだであろう。その時彼は生きがいを感じたであろう。正しいこと、好きなことをやって伸ばしていく。今行っていることが好きになれば最上の人生を送

ることをこの詩に表している。彼は既成の価値にとらわれず生きていった禅僧であり、詩人であった。彼は“cynical”に生きた人であった。

ホエーランの師匠、リチャード・ベイカーはホエーランの詩集 *Canoeing Up Cabarga Creek* の「前書き」(Introduction)で「ホエーランは1969年、京都市安泰寺近くの6畳一間の部屋に住んでいたこともある」¹⁹⁾と述べている。ホエーランは安泰寺でも坐禅を行っていたことがわかる。この曹洞宗のお寺は1977年に兵庫県美方郡に移転している。現在のご住職はドイツ人、ネルケ・無方師である。当時安泰寺は京都市北区大宮玄塚北東町3-77にあった。京都市にお寺があった時代、内山興正老師も住職をしていた。内山興正老師のお寺に50歳前後の高校の先生が相談に来られた時のことを語っている。

この先生はすでに二十数年も先生をしてこられたそうですが、「この頃の学校教室の荒れ方はひどいもので、私は授業の前になると急に頭痛がしてきたり、胃が痛くなったりして、とてもこれ以上学校へゆく気持ちにはなりません」といわれます。あなたがノイローゼになられるのも無理はないと思います。じつは私も昭和24年夏に京都へ移り、それから昭和38年まで丸14年間、托鉢生活をしてきました。というのは私が移り住んだ京都(市の)安泰寺という寺は、檀家一軒もなく、全く無収入の寺で、寺も荒れはてていました。そこで坐禅や接心の修行をするためには、どうしても京都の街で托鉢するよりほかはなかったのです。ところが昭和24年頃といえば戦後間もない頃で、京都の街の人々も生活が大変で、向こうさん自身が托鉢して歩きたいくらいの気持ちの時代です。一年ぐらいの後には、京都の街の人々とみな顔見知りになってしまい、みんなから「また来やはった。あの年とった坊さんは乞食商売や」と思われてしまった。そして今日も托鉢にゆくために法衣を着、脚絆をつけ、草履をはいているうちに、今日ゆくつむりの街の風景がまざまざ目に映り、もはやそれだけで心が重くなり、暗い気分になってしまうのでした。しかし出かけねば文字通り食ってはゆけないので、とにかく出かけます。私の托鉢ノイローゼは始めてから一年目から始まって、しかしそれでもゆかねばならぬので、毎日出ぬ声をふりしぼり、少しでも貰えそうな街を探りつつ、たとい五銭札、十銭札、一円札一枚でも有難くいただきつつ、約一年間続けました。そうしているうちにだんだん、托鉢に対する自分の姿勢がキマッテき、最後には「絶対にお断りをいわせぬ、必ず出させる」という気迫をもって声を出すようになりました。いまあなたがあなたの授業ノイローゼを克服するためには、私が托鉢ノイローゼを克服したのと同じような努力をされねばならないでしょう²⁰⁾。

内山興正老師はさらに「本来の生命力において立ちあがり、おのおのの生命力として努力し

て、エリートコースへゆくのであればもちろん結構です。あるいはエリートコースへはゆけず、たとい下積みになったとしても、その上下はただ「社会分の一」の人間としてみたかぎりなのであって、「本来の生命」として、自分自身の生命力において精いっぱい生き、精いっぱい自分なりの生命の花を咲かせるのなら、なんの不足があるでしょう」²¹⁾と述べている。教師の「もちろん社会の約束事である各方面の知識や学問などを教えこむことも大切なことであるわけですが、しかし根本的には、一人一人のどの子も、その子なりの人生軌道に乗り、その子なりの人生の花を咲かせるようにまで、教育することでなければなりません。もしそういう根本的ネライからすれば、今日のようにただよい上級学校へ進学、あるいはエリート会社に就職というだけが、教育の目標としてすまされるものではないでしょう」²²⁾と鋭く問う言葉は拙い教育を行っている筆者を鼓舞するものである。

次のホエーランの詩「戦争」は以前、拙著1巻序文²³⁾で紹介した。その詩は短いけれど温かい心の持ち主であることを彷彿とさせる作品である。

The WAR

A handsome young Viet Nameese guy from Burlington, Vermont
Just now got it right in the neck

15:x:67²⁴⁾

戦争

ヴァーモント州バーリントン出身の若くてハンサムなベトナム系
アメリカ人はすぐに撃たれた

1967年10月15日（拙訳）

ベトナム戦争で枯葉剤がまかれたことによってベトナムでは多くの異常児が生まれた。ではベトナム戦争はどのようにして起きたのであろうか。「トルーマン政府は、共産主義者に率いられたベトミンに対するフランスの植民地戦争に軍事援助を与えることを決定し、これによってアメリカをベトナムに「直接介入」させ、アメリカの政策の針路を「規定」した」²⁵⁾。「アメリカ政府はいまやフランス植民地主義の復活に賭けたのである。略。(1945年) 8月末、ド

ゴールはワシントンを訪れ、24日のトルーマンとの会談ではインドシナが話題にのぼった。アメリカはフランスのインドシナ復帰を支持すると、いまでは大統領がフランスの指導者に話していた。決定は下された。そしてそれは、数十年間にわたる世界史の方向をきめることになったのである²⁶⁾。フランスの植民地政策を後押しする形でアメリカはベトナム戦争に介入していった。

ホエーランがこの詩を書いた1967年の頃はどんな様子であったろうか。「大統領が承認した北爆における一つの変化は、シャープ提督および統合参謀本部の要請によって、1967年2月以降B52の出撃延べ機数が月60機から八百機に増加したことである²⁷⁾。「〈1967年1月〉CIA報告の推定によれば、1965～66年の北爆による北ベトナムの人的損害は三万六千人、うち民間人が八十%を占め、その民間人死者総計は約二万九千人。〈1967年3月〉ウェストモーランド将軍、二十万人の新規増派要請（米軍総兵力六十七万一千六百一十六）」²⁸⁾。この資料から1967年初頭ベトナム戦争が激しさを増していったことがわかる。「米軍機がベトナムの子供たちを目標に、致死性の毒入りキャンデーを散布している事実だけを指摘しておこう。略。しかも米機が攻撃目標を軍事施設よりも民間目標、一般住民を主としている点で、アメリカの犯罪性は二重になる²⁹⁾。ホエーランが短いけれどベトナム戦争の詩を書いているのは重要なことで、彼自身がアメリカ人として苦しんでいたことが窺われる。

ホエーランは友人であったアレン・ギンズバークの60歳の誕生日を祝う詩を書いている。

FOR ALLEN, ON HIS 60th BIRTHDAY

Having been mellow & wonderful so many years
What's left but doting & rage?
Yet the balance of birthing & dying
Keeps a level sight: Emptiness, not
Vacancy, has room for all departure &
Arrival; I don't even know what
Day it is.

28:viii:85³⁰⁾

アレンへ、あなたの60歳の誕生日に

長年にわたって円熟し、最高であるが
老いぼれと渴望以外に何が残っただろうか？
出産と死が均衡のとれた光景を保っている：虚無ではない、
空（くう）には全ての出発と到着の余地がある；それが何日か
わからないけれど。

1985年8月28日（拙訳）

ホエーランは曹洞禅の僧侶であったので道元禅師のことは意識していたはずである。『修証義』という書物は道元禅師の『正法眼蔵』を底本にしてまとめられたものである。小倉玄照老師はこの『修証義』の冒頭に書かれている「生をあきらめ死をあきらむるは、仏家一大事の因縁なり」についてその現代語訳と解説をしておられる。現代語訳「生きることの意義を明らかにし、それと死との関わりをはっきりさせることは、仏教徒として生きるからには、最大の関心事でなければならぬ」。師はこの文章の原典である『正法眼蔵』「諸悪莫作」について説明された後、次のように語っている。「生を明らめ死を明らむる」ということは、単に今の自分の生と死を問題にしているのではないことがはっきりします。人の一生を全体的に捉えて成長の過程でそのおりの意義づけを自然の摂理に即してきちんと解明できなければならぬのです。つまり、三才の子どもの喜びや悲しみに心から共感することができなければ、残り少ない余生を生きる老人の心情も本当のところは思い及ばないということになりましょうか³¹⁾。

アレン・ギンズバーグは便所の詩を書いてゲイリー・スィダーに捧げている。

In the Benjo

To G. S

Reading *No Nature* in the toilet

Sitting down, absorbed

page after page, forgetting

time, forgetting my bottom

relax, detritus

flopping out into water

—better than pushing and squeezing,

nervous, self-conscious—
better forget and read a book,
let your behind take care of itself
better than hemorrhoids, a good volume
of poetry.

*October 23, 1992, 11:00 A.M.*³²⁾

便所で

ゲイリー・スナイダーに

便所で詩集『無自性（空）』を読む
座って、夢中になって
ページからページへ、時を忘れて、
お尻を忘れて
くつろぐ、排泄物は
どさりと水に飛び込む
—無理に力むことなく
いらだたず、自意識過剰にならず—
忘れて本を読む、
痔疾にならないように、
信頼する自分のお尻
良い詩集に触れて。

1992年10月23日午前11時（拙訳）³³⁾

ギンズバーグはこの詩の題名に「便所」という日本語を用いている。英語の“toilet”ではなく、「便所」と言う表現が注意を引く。日本各地、時代等によってその表現は多い。授業中に学生に聞くと、若者は「便所」より「トイレ」などという言葉が好きようだ。藤田紘一郎氏はサイクルについて興味深いことを述べておられる。「人間や動物がものを食べて、生きて、死ぬと微生物がそれを分解する。土が豊かになり、美味しい食べものが育ち、また人間や動物が食べる。それが、「自然のサイクル」です。それとは別に、もう一つのサイクルがあります。「植物

のウンコ＝酸素」を人間が吸って、ウンコを出して、それが微生物に分解され、また植物に還っていく。「自然のサイクル」が食べることでつながるサイクルだとしたら、こちらは、生きものの排出物、ウンコがつながるサイクルです³⁴⁾。そして氏は「自然のサイクル」と「ウンコサイクル」。その両方が支え合って、「地球のサイクル」が回っている。そんなふうに考えると、動物のウンコも「かす」ではなくて、もっと大切なものに思えてくるような気がします³⁵⁾と述べておられる。そうするとギンズバーグのこの詩は決して下品なものではないことに気がつく。

おおたわ史絵氏によると「人間の排便には、ある程度のイキミはつきものです。ただし、あくまでもある程度であって、イキミすぎはNO!」³⁶⁾という。上のギンズバーグの詩で「無理に力むことなく」とあるが医学的に正しいようである。おおたわ氏は又次のように述べている。「腸は第二の脳だ、と話したのを覚えていますか？ そう、腸は脳と同じホルモンが存在するくらい、ストレスの影響を非常に受けやすい臓器です。だから、緊張や心配ごとがあると、とたんに便秘や下痢になるのです³⁷⁾。ギンズバーグの上の詩に「いらだたず 自意識過剰にならず」とはまさにこのことを言っているであろう。

ギンズバーグは日本語の便所を使って“benjo”と表現しているのは重い。私も小中高では授業が終わると、便所、教室、廊下等の掃除をした。その体験から掃除をする方々に敬意を払うことが出来る。そのお陰もあって現在も家庭で便所や部屋の掃除をするのが日課である。子どもの時、掃除の意義や掃除の仕方を習うことがあればすばらしい勉強になるのではないだろうか。そうすれば掃除の仕事だけでなくすべての職業に対する尊敬も養うことが出来るはずである。さらに男女平等という考えにまで広がっていくことは出来ないだろうか。

ヨーロッパの場合はどうであろうか。「その状態は、まるで18世紀、スペイン植民者が過酷な財産制限政策をとってフィリピンを搾取した³⁸⁾ように、コロンブス以来、ヨーロッパの一部の国々は世界各地を収奪してきた。それはアメリカも同じであって「フィリピン人の生命は、犬の生命より安かった³⁹⁾。そして「自由と平等の幻想を抱いてアメリカへ渡って来たのに、いつのまにか人種差別の恐怖によって催眠術にかけられてしまった、ということはどういうことなのか⁴⁰⁾とカルロス・プロサン氏は書き記している。そのようなヨーロッパの国々の学校では植民地政策を中心に教えていたわけで便所掃除は生徒がするものではなかった。生徒たちは如何に植民地を行い、収奪するかを学んだであろう。そこから差別的な教育になって行ったものと思われる。だから便所掃除をしたことのない彼らは便所掃除に対するまなざしは異なっているはずである。

福井一光氏は次のように語っている。「皆さんは、ぞうきんをもって学ぶ、辞書をもって学ぶという言い方から、何を連想されるでしょうか。私は、ぞうきんをもって学ぶというと、ど

うしても生活を通じての学び方・行為を通じての学び方・体験を通じての学び方・実践を通じての学び方・感覚を通じての学び方、総じて身体活動を通じての学び方という印象を覚えます。これに対して、辞書をもって学ぶというと、やはり学問的な知り方・情報的な知り方・知識的な知り方・理論的な知り方・概念的な知り方、総じて頭脳活動的な知り方という印象を覚えます」⁴⁾。学校で勉強するのは辞書的な学びだけではなくて、ぞうきんを持って自分が使用した教室や便所等に感謝の意を込めて掃除することも、眼には見えないけれど大切なことを学ぶことが出来るはずである。

ホエーランは彼の詩“Ushi Matsuri”の題名にそのまま日本語を用いている。“A Black Bull Festival”として副題を“Ushi Matsuri”とすることも出来たはずである。或いは題名を“Ushi Matsuri”にしたとしても副題を“Japanese Black Bull Festival”とすることも出来たはずである。にもかかわらず“Ushi Matsuri”と表記するのは他国の文化への尊重の表れと思う。ホエーランは友人、ゲイリー・スナイダーにささげる短い詩“Haiku, For Gary Snyder”を書いている。表題にある“Haiku”も俳句を意識していることがわかる。その詩の中で、昆虫であるトンボをうたっているのは生命が一繋がりであること、ホエーランもトンボも形は違えどもこの地球で共に生きる存在であることを示唆している。ホエーランは「戦争」と題する短い詩でベトナム系アメリカ人のことを気遣っている。スナイダーは「東寺」と題する詩の中で「落ち着いた菩薩—おそらく観音菩薩—／両性具有でひたすらそれを試みた」と表現されている個所がある。スナイダーは両性具有と観音菩薩を結びつけている。興味ある見かたである。ギンズバーグは「ベンジョ」という題名の詩を書いている。一つは日本語をそのまま使っていること、もう一つは「ベンジョ」という言葉が何語であれ、詩で使われることは少ないと思われる。3人の詩人は既成の価値観にとらわれることなく新しい発見を目指して書いている。チャレンジ精神に富んでいるアメリカの詩人たちと言えよう。

注

- 1) *Poets on the peaks: Gary Snyder, Philip Whalen & Jack Kerouac in the North Cascades / text and photographs by John Suiter* (Counterpoint, 2002), p. 6.
- 2) Gertrude Stein, *Wars I Have Seen* (Random House, 1945), p. 13.
- 3) *Poets on the peaks*, p. 253.
- 4) Philip Whalen, *The Collected Poems of Philip Whalen*. Ed. Michael Rothenberg (Wesleyan University Press, 2007), p. 514.
- 5) 因みにこの「盆栽」について水村美苗氏は著書の中で氏自身とリトアニアの詩人との会話を載せている。場面はアメリカのアイオワである。ここで開かれる IWP という長期プログラムに世界各国から作家や詩人たちが集まっている。それに先立ち参加者全員が旅行に出かけた時のバスの中の様子である。「リトアニア

の詩人がうしろから首をのぼした。「『ボンサイ』を知っていますか？」ボンサイ？日本人との話題を探そうとしてくれたものと思える。振り向いた私はとまどいを露わにして応えた。「盆栽が何であるかは知っていますが、盆栽のことは何も知りません」アメリカでボンサイ・ファンがいるのは知っていたが、肩をこごめて小さな松をちょんちょんと切る日本の爺さん趣味が、地図の上でどこにあるかも判然としないリトアニアの若者にまで広がっているとは思ってもよらなかった。どうやらかれは実際に興味があるらしい。一つの種類の木について何か質問があるとみえ、うー、アーと言いながら、もどかしそうに指で木の形らしきものを描いている。質問の内容以前に、一体何の木についての質問なのかわからない。私は木の名前などは日本語でさえほとんど知らなかった。(水村美苗『日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』筑摩書房、2014年、9-10頁。)確かに自国の文化を全て知ることは難しい。盆栽を知らない場合はどのように対応したらいいだろうか。そのリトアニアの詩人が何時、何処で盆栽のことを知ったのかを尋ねることによって会話が続いていくかもしれない。リトアニアの国では盆栽の興味を持っている人は多いですかと聞き返して盆栽のことを教えてもらい会話を盛り上げていくのか。あなたは詩人なので盆栽についての詩を書いておれば聞かしてくださいともっていくのか。盆栽は自然の中で育っている木々を鉢の中で縮小して再現しようとする芸術である。縮小と言う点からすれば日本の短歌、俳句、川柳も短詩であって盆栽に共通するものがある。そのような観点からリトアニアの詩人に話しかけたら面白いかもしれない。

- 6) 『BUDDHICA 佛教大事典』監修 古田紹欽／金岡秀友／鎌田茂雄／藤井正雄 (小学館, 1988), 285頁.
- 7) 同上, 63頁.
- 8) Philip Whalen, *The Collected Poems of Philip Whalen*, p. 156.
- 9) 上田哲行「全国で激減するアキアカネ」『自然保護』(No. 529): 36-38, 2012年9・10月号, 38頁.
- 10) YOSHIMURA Mayumi and OKOCHI Isamu “A decrease in endemic odonates in the Ogasawara Islands, Japan” 『森林総合研究所研究報告』(Bulletin of FFPRI, Vol. 4, No. 1 (No. 394): 45-51, Mar. 2005, p. 49.
- 11) 角谷拓・須田真一・鷲谷いずみ「トンボの絶滅リスクに及ぼす生態的特性の効果」『日本生態学会誌』60: 187-192, 2010年, 189頁.
- 12) 粟生田忠雄・片野海・遠山和成・神宮字寛「赤トンボの羽化殻を指標とした市民参加型の水田環境評価」『新大農研報』65(2): 131-135, 2013年, 134頁.
- 13) 『平成26年度環境省請負業務 平成26年度 農業の環境影響調査業務 報告書』平成27年3月27日 独立行政法人 国立環境研究所
- 14) Gary Snyder, *Riprap and Cold Mountain Poems*. (Grey Fox Press, 1982), p. 18.
- 15) 『佛教大事典』210頁及び524-25頁抜粋.
- 16) 渡邊恵子「男らしさ・女らしさから両性具有へ—米国における心理学的測定研究の歴史—」『神奈川大学創立六十周年記念論文集』: 493-518, 1989年, 495頁.
- 17) 同上, 515頁.
- 18) Philip Whalen, *The Collected Poems of Philip Whalen*, pp. 744-45.
- 19) Zentatsu Richard Baker-roshi “Introduction” *Canoeing Up Cabarga Creek Buddhist Poems 1955-1986* by Philip Whalen (Parallax Press, 1996), p. xvi.
- 20) 内山興正『ともに育つ心』(小学館, 1985), 81-84頁抜粋.
- 21) 同上, 160頁.
- 22) 同上, 165頁.
- 23) 田中泰賢『Buddha 英語 文化 田中泰賢選集 全5巻』(あるむ, 2017) 第1巻序文, 7-8頁参照.

- 24) Philip Whalen, *The Collected Poems of Philip Whalen*, p. 550.
- 25) 『ベトナム秘密報告』(上) ニューヨーク・タイムス編/杉辺利英訳 (サイマル出版会, 1972), まえがき 15頁.
- 26) 陸井三郎 (くがいさぶろう) 編『資料・ベトナム戦争 (上)』(紀伊國屋書店, 1969), 157-158頁.
- 27) 『ベトナム秘密報告』(下), 595頁.
- 28) 同上, 582-583頁.
- 29) 陸井三郎編『資料・ベトナム戦争 (下)』(紀伊國屋書店, 1969), 364頁.
- 30) Philip Whalen, *The Collected Poems of Philip Whalen*, p. 788.
- 31) 小倉玄照『修証義』(誠信書房, 2003), 2-3頁.
- 32) Allen Ginsberg, *Collected Poems 1947-1997* (Harper Collins Publishers, 2006), p. 1047.
- 33) 田中泰賢『Buddha 英語 文化』第3巻, 102-104頁参照.
- 34) 寄藤文平 (よりふじぶんべい) 藤田紘一郎 (ふじたこういちろう)『ウンココロ しあわせウンコ生活のススメ』(実業之日本社, 2010), 032頁.
- 35) 同上引用文中.
- 36) おおたわ史絵『今日のうんこ』(文芸社, 2012), 159頁.
- 37) 同上, 151頁.
- 38) カルロス・プロサン (Carlos Bulosan)『わが心のアメリカーフィリピン人移民の話—*America is in the Heart*』井田節子訳 (井村文化事業社発行, 勁草書房発売, 1984), 22頁. カルロス・プロサンは「東洋人の中でアメリカにおいて作家になった者はいないかと、図書館で調べたら日本人のヨネ・野口にたどり着いた」と語っている。(同書, 295頁.)
- 39) 同上, 155頁.
- 40) 同上, 179-180頁. この書の「解説」で寺見元恵氏は「私がこの本に魅せられたのは作者の悲しさ、辛さ、くやしさがひしひしと胸に伝わってくることだった. それは同事にアメリカ南部で私自身が受けた人種偏見や、日本人移民花嫁として1918年18才でシアトルに着いた私の義母の話などを思い出させた」と書いている。(同書, 370頁.)
- 41) 福井一光『知と心の教育—鎌倉女子大学「建学の精神」の話—』(北樹出版, 2017), 164頁.